



「赤い羽根共同募金」が10月1日から始まります。
互いに助け合い、住みよい地域をめざして。

いつから始まったの？ 1947年(昭和22年)に、市民が主体の民間運動として始まりました。太平洋戦争が終わり、焼け野原でたくさんの人たちが苦しんでいる中で、助け合いの「共同募金」が始まり、戦争で家族を失った子供たちや困っている人々のために募金が役立てられたそうです。この取組は、今年で77年目になります。「自分の町を良くするしくみ」として長く続いているのですね。ちなみに、これまでで一番多かった募金額は、1995年の265億円だそうです。(阪神大震災があった年ですね。)

どんなことに使われるの？ 集まった募金は、さまざまな民間の福祉活動を支援するために使われています。例えば、「高齢者や障がい者の生活サポート」「福祉車両の整備」「児童養護施設の応援」「障がい者の就労支援」「子育て支援」等々、さまざまな活動に分配されています。まるまる学び塾も、募金の一部を助成していただいで活動しております。

どうして赤い羽根なの？ 赤い羽根は、「勇気と良い行いのシンボル」とされているそうです。アメリカの先住民は、いろいろな色の羽飾りを頭などにつけていましたが、羽根には色によって意味があり、勇気のある行いや、良いことをした人が赤い羽根をつけていたと言われていました。このことから、共同募金をしてくださった証として赤い羽根を配るようになったそうです。

**「市内の子ども食堂に役立ててください。」と寄贈。
ありがとうございます。**

☆花巻市の有限会社カスイ様からは、シュウマイや餃子、ハンバーグ等を毎月定期的に寄贈頂くことになりました。地域食材にこだわり、添加物を使用しない安心安全な食品を製造し学校給食に提供しているとのこと。社長の高橋様は、「子供たちに温かい食事として味わってもらいたい。」と話していらっしゃいました。

☆北上市地域女性団体協議会様は、フードバンク事業と子ども食堂実施団体に、年間2回ずつ食材や生活用品のご寄付を計画していらっしゃいます。今回は、市内の子ども食堂を対象にたくさんの食材や日用品を寄贈してくださいました。

※ 9月30日のまるまる学び塾の昼食には、ハンバーグ、なす、かぼちゃ、ピーマン、ゴーヤなど頂いた食材が登場します。

カスイ様からの贈呈式



北上市地域女性団体協議会様からの贈呈式

